

別紙様式 3

4 大学連携研究（公募型）支援費に係る研究成果（ホームページ用）

事 項	（所 属）	（職 名）	（氏 名）
共同研究 代表者	京都府立医科大学 総合医療・医学教育 学	教授	山脇 正永
研究組織 の体制	京都工芸繊維大学 京都薬科大学 京都府立大学 京都府立医科大学 京都府立医科大学	教授 教授 准教授 助教 特任助教	中野 仁人 楠本 正明 森下 正修 松田 剛 井上 郁
研究の名称	デザイン思考を用いた地域高齢者のリスク・マネジメント：高齢者視点の地域健康デザインの提案		
研究のキーワード（注1）	ピクトグラム、インフォグラフィック、コンプライアンス、アドヒアランス、ポリファーマシー		
研究の概要（注2）	本プロジェクトは、高齢者の健康長寿にかかわるリスク・マネジメントについてデザイン及びデザイン思考の面から解決しようという、デザイン工学およびリスク管理工学を応用した地域社会学的研究である。本研究では第一段階としてサプリメントを含めた服薬行動を対象とし、高齢者に理解しやすくかつ服薬しやすくデザインされたプロダクトの提案を行い、高齢者の生活に根ざした健康予防のリスク・マネジメントに資するものとする。		
研究の背景	日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行し65歳以上人口は既に3千万人を超え2042年の約3900万人でピークを迎える。団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年以降は国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれている。施策として高齢者の健康寿命（健康でいられる時期、平均寿命との差は男性 9.02 年、女性 12.40 年）の延伸、地域での健康リスクへの対策が求められている。		

<p>研究手法</p>	<p>一連の服薬のプロセス<病院で診察を受け、医師から療養上の指示を受け、処方箋をもらう。その後、地元かかりつけ薬局で薬を購入し薬剤指導を受け、在宅で服薬する>において起こりうるリスクについて、病院・薬局に所属する医療職等から説明を受けた一般の者でもあるデザイナーが工程化し、理解が困難又は事実誤認が起こる箇所等への対策について認知心理学の専門家から助言を受けながら、薬剤剤形、薬剤のパッケージ、処方箋等のデザイン又は薬剤指導に関する高齢患者向けリーフレットの作成等を行う。また、作成したプロダクトについて高齢者を対象としたリスク低減効果検証を行う。</p>
<p>研究の進捗状況と成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬リスクに関して、論文レビューより、①高齢者の服薬への理解と②服薬時のエラーの問題に分類されることがわかった。 ・府立大学を中心に地域高齢者の認知の特性について、服薬に関して次のように整理された。視力、調節力、分光感度等の知覚機能の低下及びワーキングメモリ（文章理解や会話に関する短時間記憶）の低下が起こること。展望的記憶（今後するべきことにかんする記憶）を手助けする外部記憶装置（メモやカレンダー）の活用による行動の補助が有効であること等。 ・府立医大及び京都薬科大学より、医師の処方シーン、薬局薬剤師による説明シーンを模擬的に再現して京都工芸繊維大学中野研究室学生に対して説明が行われた。 ・中野研究室が地域高齢者の健康をデザインするプロダクトの提案（薬剤情報をひと目で伝えるピクトグラム及びインフォグラフィックの開発、一般への啓発を行うモーショングラフィックスの開発）を行い、評価をまとめ中である（11月発表）。
<p>地域への研究成果の還元状況</p>	<p>本研究は地域における高齢者の健康リスクを低減することを目的とする研究であるが、セルフメディケーションが求められ、かつ、服薬の自己管理が求められる時代に、服薬エラーを防止するとともに、医療や服薬へ的高齢者により理解を助けることが重要であることが判明した。高齢者の理解が進むようなプロダクトを制作することで地域に暮らす高齢者に還元していける研究を継続していく。</p>
<p>研究成果が4大学連携にもたらす意義</p>	<p>研究開始前には面識のなかった4大学の研究者がその専門性を背景にリクルートされ正に集学することとなった。地域高齢者の健康に資するデザインを特にサプリメント等を含む服薬に関するシーンに特化して問題点を明らかにすることが出来た。その問題点を解決するための研究の継続を外部資金獲得によって達成しようとしている。同時に大学間の教員・学生の交流の場となり、ファカルティ・ディベロップメントの一翼を担う意義もあった。</p>

<p>研究発表 (注3)</p>	<p>順次、学会発表、論文化を進めていくが、まずは研究をしっかりと進めるために外部資金を獲得し、研究を継続していく。 文部科学省・基盤研究（B）「デザインに拠るリスク・マネジメント：医療・服薬のアドヒアランスとコンプライアンス」（平成30－32年）</p>

注1 「研究のキーワード」欄には、ホームページ閲覧者が、研究内容のイメージをつかめるように、キーワードとなる用語を3個から5個程度、記述すること。

注2 「研究の概要」欄には、ホームページ閲覧者の理解の助けとなるように、写真、表、グラフ、図などを用いて、作成すること。

注3 「研究発表」欄には、論文、学会発表、ニュース・リリース等について記述すること。

注4 研究成果が「知的財産」の発明に該当する場合は、ホームページでの公表により、新規性の喪失となるため注意すること。

注5 本書は、A4サイズ3ページ以内とすること。